

巻頭書



論文誌・欧文誌の統合について

佐藤 繁†



すでに9月号の学会誌で発表されていますが、現在月刊刊行中の論文誌の国際化を目指して、来年1月から同誌に英文論文も掲載することとし、それに伴い季刊英文誌 JIP (Journal of INFORMATION PROCESSING) は休刊となります。

従来論文誌は、本文・抄訳共に和文となっていました。最近日本国内で発行されている論文の内容を知りたいという要望が海外において大変高まってきています。そのために専門の翻訳業者を入れて現地語に訳そうという動きもあちこちで耳にします。また日本で研究、勉強している海外からの研究生、留学生を始めとして情報処理学会に英文論文を投稿したいという希望が増えてきています。日本人ですら、海外在住のみならず国内の人を含め、英語で投稿する人が増えてきている現状であります。これらを考慮し今回現在の論文誌を和文のみということではなく、英文論文も自由に掲載できることとし、また日本語での投稿には日本語の抄訳のみでなく、英文の抄訳も載せることとなりました。また本文中の図・表にも英訳がつくこととなりその結果、論文誌については日本語の読めない外国人にとっても最低各論文の抄訳を英語で把握することが可能であります。抄訳を読んだ結果、是非内容の詳細を知りたいという人があれば、別途本文を翻訳業者へ依頼して翻訳してもらえば内容を全部把握できるという訳です。翻訳については最近電子メールでのサービスもすでに一部では開始されています。また論文誌は月刊誌であり、今までの JIP は季刊誌であったため、英語で投稿した場合掲載までに時間がかかっていましたが、今度は毎月出ますのでより早く掲載され得るという利点も生じます。また、今まで特集等、特定のテーマで編集する場合がありますがこの場合も和文・英文のどちらで書いてもよいということです。このように論文誌を国際化することによって、より広汎に流通することが図られる

ようになると考えます。

一方 JIP のように英文のみを載せた雑誌が欲しいという要望もあることも事実です。和文・英文混在で国際化したといっても、日本語の読めない外人にとっては和文の部分は実質的には冗長であります。また前述のように、抄訳のみ英文で、あとは必要のある人は自身で翻訳業者に頼みなさいというのも、身近に翻訳手段が無い場合は困ります。したがって当学会としては更なる国際化を目指して、英文専門誌の検討も平行して進めています。即ち、論文誌中の英文部分の論文と和文論文の中で特に優れたものについては英文に訳して、それらを更に数カ月分まとめて一冊の雑誌として出版しようというものです。即ち現在の JIP 相当のものであり、JIP は休刊と述べたのも、このような計画があるからです。ただし従来の JIP との違いは、学会が直接出版するのではなく世界的に著名な出版社に出版を依頼し、もっと数多く流布してもらおうということです。ただし、新 JIP はオリジナル論文の集まりではなく、オリジナリティは論文誌の方にあるということにはなりません。即ち新 JIP の狙いは日本の情報処理に関する論文を少しでも数多くの海外の方達に紹介していくということなのです。このため、現在出版業者と出版条件等の検討を始めています。ただ来年一月までに間に合わせるという訳にはいかず時間が多少かかります。

今回は情報処理学会内のみでの検討ですが、今後日本の情報処理全体あるいはその他の分野の論文を広く海外に紹介するという観点から、関連学会と連携をとって進めることがより大事になってくると考えます。いずれにせよ、日本語の論文が圧倒的に多い我々日本人にとって世界の実質的な標準語たる英語の論文を増やすことにより、より開かれた学術論文の体系にしていくことが国際的に問われていると考えます。(平成4年9月3日)

(欧文誌編集委員長)

† 本会理事 (株)富士通研究所